

地域医療連携室だより

163号



4月より新たな仲間となった職員たちです。よろしくお願いいたします。

トピックス

- 新院長あいさつ
- 血液浄化療法室開設50周年記念式典を開催
- 減塩していますか？



お知らせ

平成30年4月より新メンバーで業務対応しております。今後とも円滑な橋渡し役となりますよう努めてまいります。よろしくお願いいたします。



基本理念

病める人の権利と心情を重んじ信頼される医療を行います。

基本方針

- 安全で質の高い医療を提供します。
- 次世代の医療を担う人材の育成に努め、時代の変化に対応できる中核病院としての役割を果たします。
- 地域包括ケアシステムを推進する取組みを進め、地域の医療、保健、福祉の向上に貢献します。
- 患者さんに喜ばれ、誇りをもって働くことのできる病院づくりに努めます。

信楽園病院広報誌 地域医療連携室だより163号

平成30年7月発行

編集 社会福祉法人 新潟市社会事業協会
信楽園病院 地域医療連携室

〒950-2087 新潟市西区新通南3-3-11
TEL025-260-8101 FAX025-260-8102
Http://www.shinrakuen.com

新潟市在宅医療・介護連携ステーション西第二

〒950-2087 新潟市西区新通南3-3-11
TEL025-260-8108

新院長あいさつ

院長 高澤 哲也



私は、宮崎 滋 前院長の後任として、この4月1日付で信楽園病院の10代目院長に就任いたしました。当院は、昭和6年結核患者の静養施設「有明松風園」として開設されたのが始まりで、今年で創立87周年となります。昭和43年には、当時先進医療であった腎不全患者に対する透析医療を開始し、名称を信楽園病院に改め、今年50周年を迎えました。このように、伝統ある病院の院長に就任することとなり、責任の重さに身の引き締まる思いが致します。

私は平成1年5月に糖尿病・内分泌内科医として当院に着任し、まもなく30年目を迎えます。人生の半分をこの病院と共に過ごし、その間多くの諸先輩方にご指導頂き、同僚、後輩、職員の方々に支えられてまいりました。尚且つ、診療を通して大勢の患者さんやご家族の方々と接し、多くを学ばせていただきましたことに感謝申し上げます。この30年間で病院にもいろいろな出来事がありました。その中で、私にとっても病院にとっても最も重大な出来事は、12年前の病院新築移転だったと思います。それまでであった有明地区から現在の新通地区へ移転しました。直線距離でわずか5kmの移転でしたが、このことにより病院は大きく変わったと感じております。

新潟市西区には、多くの病院があります。その中で、救急告示病院または二次輪番担当病院は5病院あります。この内ほとんどの病院は、西区の中の東端付近にあり、当院もかつて同じ地域にありました。移転した結果、地図上では西区のほぼ中央、市街地地域と農村地域の境界に立地することとなりました。当院より西側には、西区はもとより西蒲区まで、二次救急を担う病院はありません。今、国の方針として地域包括ケアシステム構築推進の流れが加速してきています。宮崎前院長が就任した4年前、当院でも地域包括ケア病棟を導入しました。当時の院長就任挨拶で宮崎先生は「病院完結型医療から地域完結型医療への転換を図る。」との方針を打ち出しておられました。その後その方針に沿う形で「新潟市在宅医療・介護連携ステーション西第二」を受託し、在宅医療ネットワーク「にしく赤・坂ネット」の立ち上げに参加してまいりました。今後はこの流れをさらに加速し、この地域の地域包括ケアシステムの一翼を担う急性期病院としての役割を果たし、地域に必要とされる病院であり続けたいと考えております。これを実現していくためには、院内職員の協力のみならず、院外の医療・介護施設のスタッフの皆様との連携が重要と考えておりますので、ご支援よろしくお願い申し上げます。

当院は基幹型臨床研修病院になり2年がたちます。今年初めての研修終了者1名を送り出しました。現在学年定員を4名とし臨床研修の充実に努めているところです。今後はさらに定員を5名に増やし、できれば全国的に見ても医師数（人口比）が少ない新潟県の医師数増に貢献していきたいと考えております。当院の協力型となっただいただいている病院の指導医の先生には、今後ともご協力よろしくお願い申し上げます。

近年、少子高齢化と国の財政難に伴い医療を取り巻く環境は厳しさを増しています。当院も新築移転以降、いまだ安定した病院運営には至っておりません。今後も決して楽観できない状況が続くことと思いますが、赤字を縮小し、できれば解消して安定運営とすることが、私に与えられた任務の一つと考えております。未永く地域に貢献できる病院となれるよう努力する所存ですが、決して一人では達成できないことも承知しております。院内職員の皆さんと共に、さらには地域の関係者の皆様のご協力を仰ぎながら、信楽園病院を守り育てていきたいと願っております。

血液浄化療法室開設 50 周年記念式典を開催

腎臓内科 森岡 哲夫

当院は昭和43年3月3日に平澤由平先生のご指導のもと透析療法を開始し、本年3月で50周年を迎えました。これを記念して3月25日に信楽園病院透析室開設50周年記念講演会・祝賀会を開催いたしました。講演会は、有明診療所の高橋幸雄先生より「血液透析の温故知新」と題した血液透析黎明期から今日に至るまでの歴史をお話いただきました。



有明診療所 高橋幸雄先生



新潟大学腎臓病内科教授 成田一衛先生

続いての記念祝賀会では、新潟市社会事業協会 高橋秀松理事長の開会の辞に始まり、ご祝辞を新潟大学腎臓病内科教授 成田一衛先生、新潟県福祉保健部 参与・新潟大学名誉教授 荒川正昭先生、新潟薬科大学特任教授・新潟大学名誉教授 下條文武先生の御三方よりいただきました。大塚台クリニック院長・新潟大学名誉教授 高橋公太先生の御発声で乾杯となり祝宴が始まりました。

新潟県内の透析関係者、当院透析室在籍者など200名ほどのご参加で、会場のあちこちで昔話などの花が咲きました。会の終わりは、あかつか診療所鈴木正司先生から平澤先生のお話をいただき、開設当初から今日までの懐かしい写真を交え、懐かしさのなか前院長宮崎滋先生の挨拶でお開きとなりました。



あかつか診療所 鈴木正司先生

透析室が50周年を迎えられましたのも、院内外関係者の方々のご支援の賜と深く感謝しております。透析を取り巻く環境は厳しくなっておりますが、腎不全医療に幾ばくかの貢献ができますようスタッフ一同取り組んでいく所存ですので、今後ともご指導ご協力の程よろしくお願いいたします。



信楽園病院 透析室 開設50周年記念講演会・祝賀会

平成30年3月25日
於 ANAクラウンアザリア新潟

減塩していますか？

管理栄養士 岡畑 美帆

食塩の摂りすぎが...

高血圧 → 脳血管疾患、心臓病、腎臓病



他に... 胃がん、骨粗鬆症など

2015年国民食事摂取基準より

男性

女性



8.0 g 未満/日

7.0 g 未満/日

が推奨されています。

国民健康・栄養調査より

新潟県民は1日の食塩摂取量が

10.4 g

となっており、年々減少傾向にあるものの食事摂取基準に比べるとまだ多い現状となっています。

塩分の多い調味料 (塩分量：大さじ1杯あたり)

食塩	18 g
固形コンソメ、顆粒風調味料	7.3g
濃口醤油	2.6 g
カレールー	2.1 g
みそ	1.1g



塩分の多い食材 (1食の可食量あたり)

梅干し1個	2g
たらこ1腹	2.3g
あじの開き1切れ	1.7g
たくあん漬け(厚切り)4枚	1.2g



塩分の少ない調味料としては、

ケチャップ 0.5g、めんつゆ(ストート) 0.5g

マヨネーズ 0.2g

(大さじ1杯あたりの塩分量)

などがあります。



現在は減塩商品が店頭にも多く並んでいます。そういった便利な商品も活用して減塩に取り組んでみませんか？



新潟県でも減塩活動が行われています。



新潟市品目別家計調査ランキング

1世帯当たり年間支出金額

(H24-26年平均) 全国51市中の順位

食塩 1位 漬け物を作る習慣が多いようです。

塩鮭 2位
カレールー 3位
カップ麺 3位



当院減塩ヘルシーメニュー

《酢豚風煮》



豚ロース肉40g
玉葱、ピーマン、赤ピーマン
サラダ油5g
ケチャップ10g、酢8g、
醤油2g、砂糖3g、片栗粉2g

塩分の少ない調味料のケチャップと酢を使って醤油は隠し味程度にしたメニューです。食材を揚げずに炒め煮にすることでヘルシーに。